

<国際宝飾展 2016>

図面上ではBIZ 前方は大手企業、後方はガールズジュエリー。どうなることかと危惧したが現場は大手企業のかつてのような高い壁はなく、又ガールズジュエリーのレベルの向上はめざましいものがあった。数年前の笑顔ひとつ見えない来場者の元気は戻ったかに見える。でも、活発に質問（海外ジュエリーショーの予定、海外契約会社の有無など）、吟味するのはアジアと欧米のバイヤーばかり。彼らの関心はバロックパールピンブローチ（使い勝手の良さと手ごろな価格、キュートな姿）と、シマダ呼ぶところのくるくるネックレスに集中。特にこのネックレスは多くが試着を望む。弾むように流れる金線の先に色石が揺れる。工芸的で楽しく美しい。ただ日本人も元気は戻ったとはいえ、もっともっと明るくなってほしいところです。



<お伊勢詣り>

日本の八百よらずの神々の大元の神に詣でる。清澄な空気の流れる広大な敷地に入ると自ずと背筋が伸び心身が洗われるような清々しさを感じる。その一つには、この広大な敷地を維持する人達の、日本建国の元となる神とそれに続く皇室への敬いの姿勢によるのかもしれない。日本人の謙虚さ、真面目さと民度の高さは（それらが海外の人を魅了する反面、それを恐ろしいと感じる国もある）、ひいては日本という国の心身の美しさをも感じる。伊勢神宮というのは通称で、正式名は単に“神宮”という。日本唯一の社で 2000 余年の歴



史と 125 の宮社からなる。伊勢内宮近くに猿田彦神社がある。こちらは“みちひらきの神”といわれ、ここにお参り、お祓いを受ける。今年の国際宝飾展での賑やかさ、多忙を友人は“猿田彦のおかげ？”と言うが、その友人にはもっと早くはっきりとした現象が起きたので“猿田彦ホント？”と思うのは不敬か。



<美味しい幸せ>

今年も広島から牡蠣が届く。ここの牡蠣はふっくら、プリプリ。滋味豊かな味は身も心も豊かに幸せ感をもたらしてくれる。何かに接した時の感激は色々あるが、食の喜びは明るく楽しい。この時のドイツの白ワインはしっかり力強く牡蠣に負けてはいなかった。

<BIZの贅沢>

和もの大好きシマダはどうとう赤漆の納品ケースを作ってしまった！朱赤の地に金泥の花がポツリと浮かぶ。内蓋にはBIZのロゴマーク。本体箱の布張りの中、折り畳み布団の中にジュエリーは眠ることになる。漆箱という和ものでありながら図柄はシンプルなモダンさがある。余りに可愛く美しいので接客トレイをオーダー。勿論、箱と同じ朱赤に金泥の花。薄ベージュのしっとり感のある布と相まって上品な優しさが漂う。国際宝飾展では何人かの外国人が“あの赤い箱買いたい”。日本人のコメントは“キミ、随分贅沢してるね”。後で知ったのだがこの会社、平成天皇即位の礼の宴の漆器を拝命、ご用達とのこと。



<くるくるネックレス>

金線を手で引き延ばし曲線をつくり、その先には色石が揺れる。流れる線も弾むように美しく工芸的作品ではあるが、大変な手間がかかる。



N-0471
ラピスラズリ
トパーズ
ロードクロサイト
K10



N-0475
ルチルクォーツ
トパーズ
ロードクロサイト
K10



N-0477
トルコ石
サファイア
K10